

## パレスチナ自治区

ヘブロン周辺図



1993年のオスロ合意により、イスラエルのヨルダン川西岸地区とガザ地区にパレスチナ自治区があり、多くのパレスチナ人が住んでいます。ヨルダン川西岸地区では、ユダヤ人入植地が増え、ますます住む場所が減少しています。エルサレムの周囲には壁が建設され、数多くのチェックポイントが存在し、国内の移動すらままなりません。西岸地区のヘブロンという町も訪れましたが、ユダヤ人入植地が隣接し、道路が何か所も封鎖されているため、非常に閉塞感が漂っていました。

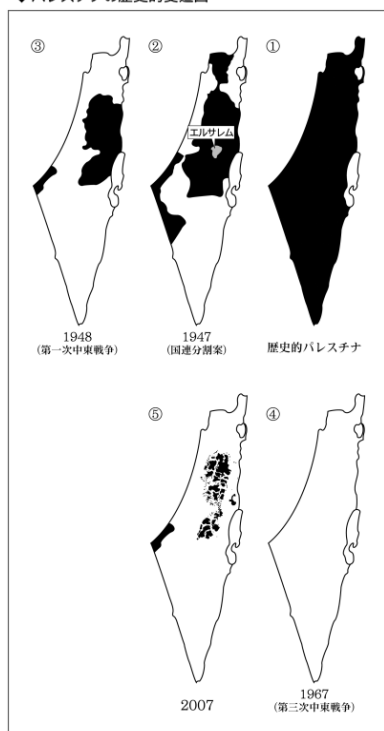
『占領ノート——ユダヤ人が見たパレスチナ的生活』

パレスチナ情報センター <http://palestine-heiwa.org/map/s-note/>

ガザは縦が46km、横が最大で8kmくらいの三重県と同じくらいの面積です。人口は176万人、そのうち125万人を超える人々が難民として暮らしています。ガザには8か所の難民キャンプがあり、世界で最も人口密度が高いと言われている難民キャンプも、ここに 있습니다。エルサレム周囲と同様に、ガザ周囲にも壁と鉄条網が張り巡らされています。海上もオスロ合意では20海里までがパレスチナ自治区の管轄ということになっていましたが、現在6海里となっています。「天井のない監獄」と呼ばれる所以でもあります。

ガザに入るためのチェックポイントを通過するには最短で1時間半から2時間かかります。もちろん、パレスチナ人の行き来は非常に制限されています。一方で、食料は最近イスラエルから豊富に入ってくるようになったそうです。スーパーマーケットには食料品が棚に所狭しと置かれていました。2014年のガザの非雇用率は43.9%にもなりますから、購入できるかどうかは別です。その他、ガザはこれまでに度重なる爆撃を受けていきましたが、インフラを整え建物の修理などを行うための資器材の搬入は厳しく制限されているようです。

◆パレスチナの歴史の変遷図



Humanitarian Atlas 2015

『占領ノート—ユダヤ人が見たパレスチナの生活』

パレスチナ情報センター <http://palestine-heiwa.org/map/s-note/>

## ガザの医療環境

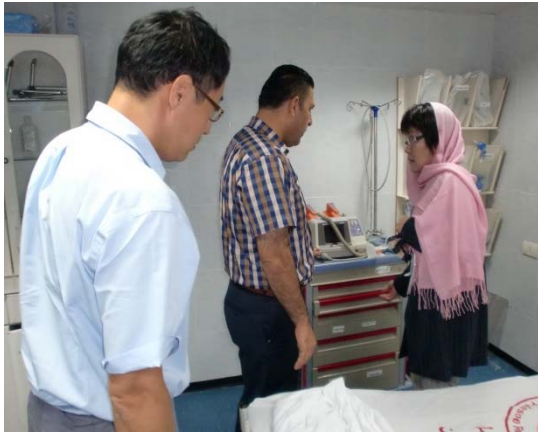
ヨルダン川西岸地区のパレスチナ赤新月社の産科専門病院や小児科専門病院がありますが、そこでは最先端の治療が提供されています。イスラエルが提供する医療レベルと同等のものが求められているため、その治療は日本と変わらない高いレベルの医療サービスが提供されています。しかし、ガザで提供される医療レベルは、西岸地区の病院で提供されるものには及びません。そのため、ガザで治療できない場合は、ガザの外の病院へ後送する必要があります。しかし、多くの患者さんたちが、ガザからイスラエル国内へのチェックポイントを超えることができず亡くなったり、ガザから出ることを許可されずに治療を受けられなかったりしているそうです。



ヨルダン川西岸地区のNICUの様子

これまでは、公立病院が大きな役割をはたしていましたが、国連パレスチナ難民救済事業機関(以下 UNRWA)などからの資金援助も減少し、設備だけでなく薬品などの不足も深刻化し、十分な医療サービスが提供されなくなってきました。その中で大きな役割を担っているのがパレスチナ赤新月社の病院です。他の赤十字・赤新月社からの支援を受け、ガザの中でより良い治療が受けられるように、設備を整えようとしています。しかし、設備や医療資機材を整えたとしても、それを活用できる知識や技術を持った医師や看護師がいないのです。これまでは、ガザから留学したり、イスラエル国内で研修を受けたりすることができましたが、その許可もとることが非常に難しくなってきました。また、「以前に 6 名ほどの医師を留学させたが、誰一人としてガザに戻ってこなかった。」と、インタビューした病院長が訴えていました。留学したりガザの外で研修させるのではなく、ガザで人材を育成していきたい、そのための支援が必要だという強いメッセージを、私たちは受け取りました。短期間の支援ではなく、長期的に人材を育成し、ガザの人々の健康を守りたいという気持ちは私たちも同じです。

日本赤十字社は世界で唯一 92 もの病院を持ち、多くの医療従事者を抱えています。まだ、調査段階ですが、今後日赤の持つ豊富な人材を活かして支援することができればと思います。



視察の様子



院長へのインタビュー



建設中の手術室